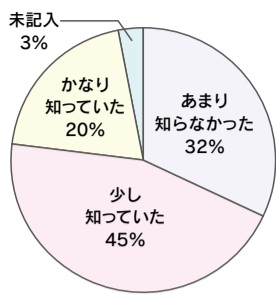


【8ページから続く】

●参加者の主な感想

▽ビデオを見た後に現地を見学したのでわかりやすかった。このようなイベントがあれば、また参加したい。
▽世界遺産に登録されるメリットがあるのか疑問に思っていたが、少し理解できたような気がする

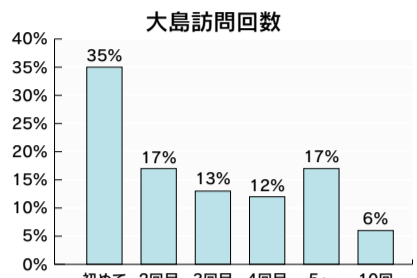
年齢	人数
40歳未満	1
40歳代	2
50歳代	18
60歳代	74
70歳代	68
80歳以上	16
合計	179



今日まで「宗像・沖ノ島と関連遺産群」についての程度知っていましたか。

また昨年度は、新たに大島でのバス見学会を開催しました。宗像歴史観光ボランティアの会と世界遺産サポーターを対象に合計5回開催（参加者95人）。参加者の多くは、初めての大島訪問でしたが、参加者からは別の季節に再訪したいとの声が多く聞かれました。また、遠拝所から沖ノ島を見た参加者からは、感嘆の声が聞かれました。バス見学会は随時、ルック講座で募集している。

ます。内容や時間などは相談に応じます。気軽に世界遺産登録推進室へ問い合わせてください。



大島の中津宮で説明を聞く参加者たち

世界遺産サポーター

世界遺産サポーターは現在、350人を突破。バス見学会の案内や各種情報提供などを実施しています。また、イベント時にはボランティアスタッフとして参加協力しています。本年度からは「宗像・沖ノ島世界遺産市民の会」と連携し、このサポーター活動をさらに盛り上げていきます。市内外を問わず募集していますので、ぜひこの機会に登録してください。

国際シンポジウム

東京の日経ホールで2月11日、国際シンポジウムを開催しました。当日の関東地方は、珍しく大雪となつたにもかかわらず約3000人の来場者がありました。基調講演では、九州大学名誉教授の西谷正さん、国学院大学教授の相山林継（すぎやま・しげつぐ）さん、韓国からは、大韓民国国立中央博物館企画研究部長の俞炳夏（ユ・ビョンハ）さんが登壇しました。

沖ノ島祭祀遺跡の変遷

西谷さんは、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」について、全体的なストーリーを説明しました。沖ノ島で祭祀が始まる以前の状況について、沖ノ島の正三位社前遺跡、大島のロクドン遺跡、田熊石畑遺跡を取り上げて説明。また、4世紀から始まる沖ノ島での4段階に変遷する祭祀遺跡について順を追って解説しました。



本遺産について説明する西谷さん

岩上祭祀遺跡は東郷高塚古墳との、岩陰祭祀遺跡は津屋崎古墳群との関連性を説明。また、朝鮮半島との関係を示す金製指輪や中東

由来と考えられるカットグラスわん、中国敦煌壁画にも描かれている金銅製龍頭、唐三彩などを取り上げ、非常に国際性の高い遺産であることを強調しました。沖ノ島での露天祭祀以降は、大島で確認された大島御嶽山遺跡や田島の高宮祭場の露天祭祀から、それぞれ沖津宮・中津宮・辺津宮が成立し、その後、今のようにな社殿祭祀へと移ることを説明。信仰については、世界遺産になっている広島県の厳島神社や神奈川県の江ノ島で宗像三女神が祭られていったことに触れ、その広がりに関して説明しました。

祭祀開始は3世紀末?

また、宗像でも、みあれ祭や神奈備祭、沖津宮現地大祭などで信仰が引き継がれ、沖ノ島に伝わる禁忌（きんき）なども残っていることなどを説明しました。

相山さんは、沖ノ島祭祀遺跡の研究に携わり、神道考古学の観点から講演しました。

今回の講演で特に注目されたのは、沖ノ島祭祀の開始時期です。相山さんは、沖ノ島17号岩上祭祀遺跡から出土している21面の鏡が、奈良県天理市の黒塚古墳から出土した33面の三角縁神獣鏡のあり方に近いことなどから、3世紀末に祭祀が始まったのではないかと提言しました。

これまでの通説では、鏡が製作されて100年以上経過した伝製品（使い伝えられたもの）を持ち込み、4世紀後半から始まったとされてきました。



神道考古学について講演する相山さん

沖ノ島での祭祀の始まりを古くする理由として、祭祀遺跡から出土した鏡に、手擦れによる風化などが認められないことを挙げました。この話題は翌日の専門家会議でも取り上げられましたが、現時点では証拠が不十分であり、今後の検討課題となりました。

韓国の航海祭祀遺跡

俞さんは、木舟での航海の困難さと実際の航海ルートについて発表。韓国を代表する航海祭祀遺跡・竹幕洞（ちゅんまくどん）祭祀遺跡を紹介した後、韓国でも近年の調査で知られるようになった祭祀遺跡の最新情報を報告しました。

まず、エンジンなどが無い時代はどうやって海を渡ったのかを考察。風の力だけでは無理なので、艦が、奈良県天理市の黒塚古墳から出土した33面の三角縁神獣鏡のあり方に近いことなどから、3世紀末に祭祀が始まったのではないかと提言しました。

（ろ）を使った人力による動力で、島伝いに航海していたと考えられます。夜の航海は危険で、昼間が主な活動時間と考えられ、目視できる島に向かってこいでいたと推測しています。

航海のルートは、三国志記によると3世紀には中国大陸沿岸から渤海（ぼっかい）湾、遼東（りやおとん）半島沿岸、朝鮮半島南西海岸、対馬海峡、日本海を結ぶコースであったと推測。船の性能が良くなるにつれて、航海ルートも次々に開発されていきます。

韓国で古代の航海祭祀遺跡として代表される竹幕洞遺跡は、辺山（びんさん）半島で最も突出した海岸に位置し、周辺の近海を眺望できる絶好の場所に位置しています。祭祀は3世紀から始まり、5〜6世紀が最も盛んに開かれていたように、朝鮮時代末期頃まで続いていたようです。

祭祀の出土品の中には、中国製の青磁や日本製石製品が含まれ、大甕（おおがめ）に馬具や武器などを納めるといった加耶地域での方も確認されています。このことから、中国王朝、百濟（韓国西側）、加耶（韓国南部）、倭（日本）という国際的連携の下で相互に往来した船舶などが立ち寄り、遠距離航海に備えて、安全を祈願したと推測されています。

また、近年の調査では、

濟州（ちえじゆ）島龍潭洞（よんだんどん）遺跡や、莞（わん）島清海鎮（ちよんへじん）遺跡、鬱陵（うりりん）島玄圃里（ひよんぼり）遺跡からも航海に伴う祭祀遺跡であることが確認されています。

大島御嶽山遺跡を報告

基調講演の後、3人の講演者に日本イコモス本部執行委員の岡田保良さんを加え、九州国立博物館館長の三輪嘉六（かろく）さんの進行で、パネルディスカッションが開かれました。

この中で、西谷さんが、昨年発見され調査が実施された大島御嶽山遺跡の重要性について報告しました。



パネルディスカッションの様子

世界遺産としての価値を総合的に捉えた今回のシンポジウムは、まだまだ知名度の低い「宗像・沖ノ島と関連遺産群」と宗像市を、関東圏内で啓発する上で、たいへん意義深いものとなりました。

好評発売中! 広告主を募集 広報紙とホームページ

市では、平成18年10月から市の広報紙とホームページに有料広告を掲載しています。あなたも広告を出してみませんか。

◎広告の規格と掲載料 (このほかにも1/3ページ、1/2ページ、1ページの規格があります)

規格	広告の大きさ	料金(1冊1月につき)	色数
広報紙	縦 5.9cm	1枠当たり	白黒1色
	横 12cm	20,000円	
ホームページ	縦 5.9cm	1枠当たり	白黒1色
	横 24cm	36,000円	

※1年間に12号以上掲載を希望する場合は10%、6号以上掲載を希望する場合は5%を掲載料から割り引き

◎締め切りは掲載希望号の2カ月前

規格	料金(1冊1カ月につき)
天地左右データ容量 50ピクセル	トップページ 15,000円
160ピクセル	トップページ外 10,000円
20キロバイト以内	
Jpeg, Gif形式、Flash形式のいずれかでALT属性テキストデータ、全角20文字以下	

市では今後、印刷物などにも有料広告を掲載し、蔵入の確保に努めていく予定です。みなさまの理解と協力をお願いします。



問い合わせ先 情報政策課広報編集係 ☎(36)1055

水道・下水道の新設・改造・修繕のご用命は…

迅速・親切・丁寧な

宗像管工事協同組合に

年中無休 24時間対応

☎37-0435

宗像市東郷 1083 番地の 3